

## 横浜保育福祉専門学校 学校関係者評価委員会における指摘事項等

平成 30 年 3 月 20 日および平成 30 年 5 月 30 日、本校にて実施した。社会福祉法人朝日の里朝日塾、社会福祉法人伸愛会(屏風ヶ浦はるかぜ保育園)、県立保土ヶ谷高等学校、横浜市戸塚区役所、岩崎学園東戸塚保育園、地域住民代表、卒業生代表(保育士)よりそれぞれ 1 名、合計 7 名に委員として出席いただき、教職員 7 名と学校関係者評価委員会を実施した。指摘事項等は以下のとおり。

### 1. 教育方針・学生指導について

- ・外部連携は効果があると思われるが、一方で教員の負担にならないよう留意してほしい。
- ・教育成果発表会に出場した学生は非常に輝いて見えた。また、在校生が自分たちの代表として応援している姿も好ましく思えた。
- ・保育現場で注意や叱られることに慣れていない保育者が増えていると感じている。辞めない保育者を育成するのであれば、ぜひ在学中から注意されたことを受け止め、次の活動につなげていくことの大切さを伝えてほしい。
- ・社会性を踏まえた保育者の育成はとても重要だと考える。相手の動きを見ながら保育を実践するためには、保育者としてふさわしい所作を身につけることが大きく影響するのではないか。引き続き、基礎力を実践的に磨くことに力を入れてほしい

### 2. カリキュラムについて

- ・wi-fi 環境の整備やノート PC 貸与は、教員にとっても非常に価値がある。高校現場でも、Word や Exce 等情報スキルの習得のため、情報の授業カリキュラムに組み込まれている。情報の基礎能力は高校で身につく環境なので、保育の視点で活用するスキル向上のための授業の展開を積極的にしてほしい。
- ・高校では生徒同士のやり取りがすべて LINE やメールで済ますようになっており、電話対応やコミュニケーション能力が低下しており、学生の文章力、語彙力を高める取り組みとして、保育漢字検定は評価できる。子育て中は保育園との連絡帳のやり取りが大変励みになり子育ての一助になっていた。子どもが卒園してからもよく見ており、保育漢字検定の取り組みは大変実践的である。

### 3. 就職について

- ・横浜市内の就職率が少ないと感じた。園長会でも保育士不足が問題になっており、派遣保育士の時給が高騰している。一つの園で長く勤めることで専門力が養われるものであるが、派遣で様々な園を渡り歩く保育士が増えているのではないか。国の処遇改善もあるが、保育士の仕事の楽しさを現場からもっと訴えていかなければならない。
- ・公立保育園など公務員実績を出すことも必要ではないか。公立保育園への就職実績が出ると、3 年制の学校の魅力の 1 つになるのではないか。
- ・新卒で初めて就職する保育園で保育士としてのカラーが確立するため、保育士としての成長が見込める信頼できるところに送り出してほしい。

#### 4. その他

- 自分で考えて行動する力、コミュニケーション能力の向上のためにボランティアを活用することは非常に価値があると思う。東俣野エリアは、子どもが多く地域のつながりがとても多い。先日、ケアプラザで開催している講座に参加し、コミュニケーションの大切さを改めて実感した。学生にも、学校という枠を超えて、ボランティアに積極的に参加することで、コミュニケーション能力の重要性、人の役に立つことを実感してほしい。
- 卒業生同士で現場の大変さを語り合うことが多いが、就職してからが本当の意味でのスタートであった。在学中は就職がゴールだと思っていた。学生のとときに様々な実習体験をしたが、それ以外の現場経験を学生のうちに沢山しておけばよかった。

以上